

平成15年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ベニズワイガニ

学名 *Chionoecetes japonicus*

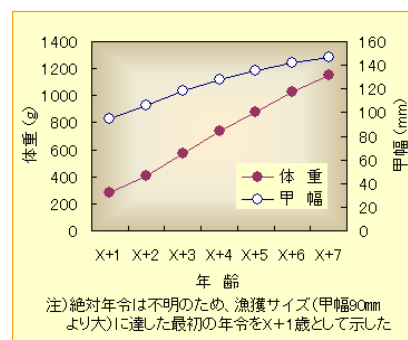
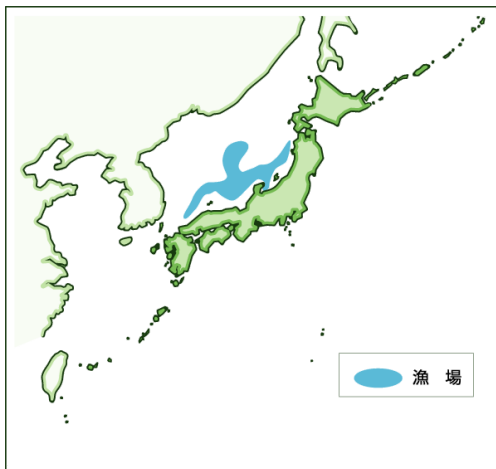
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学の特徴

寿命： 10年以上
成熟開始年齢： 不明
産卵期・産卵場： 主産卵期は2～4月、隔年産卵で、抱卵期間は約2年
索餌期・索餌場： 主分布域と同海域
食性： ヤドカリ、カニ（共食い含む）などの甲殻類、微小貝類、イカ類、小型魚類など
捕食者： 不明

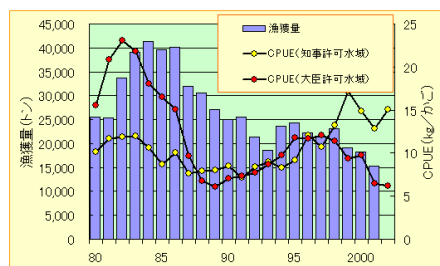


漁業の特徴

かにかごによって漁獲される。東経134°以東の各県地先における知事許可漁業と、東経134°以西及び大和堆・新隠岐堆などの沖合漁場における大臣承認漁業の2つの異なる許可形態となっている。近年、日韓暫定水域（ほとんどが大臣許可漁業水域）での操業が実質困難な状況にあり、漁場が狭くなっている。雌ガニは全面禁漁、雄ガニについても甲幅90mm以下は禁漁となっている。

漁獲の動向

漁獲努力量の増大と沖合域への漁場の拡大によって漁獲量は1983～1984年には52,000～53,000トンまで増大したが、以後は急速に減少した。1992年以降は22,000～26,000トンでほぼ安定していたが、1999年以降は再び減少に転じ、2002年の暫定値は16,000トンを割り、最低の漁獲量となっている。そのうち、2002年の我が国200海里内の推定漁獲量は12,575トンである。

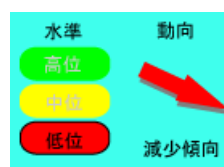


資源評価法

漁獲成績報告書を1977年まで遡って解析し、漁場別の漁獲量及びCPUE（1かごあたりの漁獲量）を求め、その経年変化を基礎とした。

資源状態

知事許可水域と大臣許可水域ではその変動傾向が大きく異なっていた。本州の北部沿岸を中心とする知事許可水域では、1990年前後に7～8kg／かごと落ち込んだが、その後次第に回復しており、ここ4年ほどは15kg／かご前後で、漁獲情報が得られている1977年以降で最高水準に達している。一方、大臣許可水域では、1989年に最低の6.06kg／かごから上向きつつあったものの、1997年に12.04kg／かごに達した後急速に減少し、2002年の暫定値では6.17kg／かごでほぼ半減している。



管理方策

知事許可水域においては、CPUEおよび漁獲物の甲幅組成から見て資源状態は良好な状態に維持されていると考えられる。しかし、CPUEの低下と漁獲物の小型化が著しい大臣許可水域においては、資源の悪化が著しいことから、漁獲水準を大幅に引き下げる必要がある。したがって、最近年の漁獲量のうち、約半分にあたる知事許可水域分については現状維持とし、残る大臣許可水域分については、CPUEの低下率を考慮して最近年の漁獲量に0.5を乗じ、全体としては、2002年の漁獲量に0.75を乗じた数字をABC limitとした。また、それに安全率0.8を乗じてABC targetとした。

	2004年ABC	管理基準	F 値	漁獲割合
A B C limit	94百トン	0.75Ccurrent	-	-
A B C target	75百トン	0.8ABC limit	-	-

資源評価のまとめ

- CPUEは1990年頃に最低となりその後はやや回復
- 大臣許可水域では1997年以降減少だが、知事許可水域では増加傾向
- 大臣許可水域の資源状態が急激に悪化しており、全体の資源は低水準、動向は減少である

資源管理方策のまとめ

- 資源の悪化が著しい大臣許可水域において、漁獲を抑制して資源の減少傾向に歯止めをかける
- 日本海の深海底に広く分布する種のため、今後、沿岸各国と共同で資源の管理にあたる必要がある
- 混獲による漁獲対象外の個体の減耗を防ぐため、浸漬時間を長くするような操業形態が望ましい

資源評価は毎年更新されます。